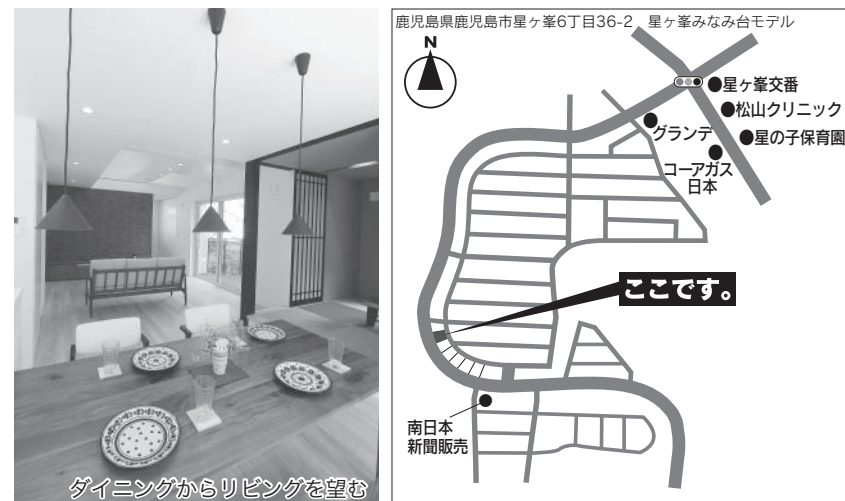


自立循環型「プラス・エネルギー・ハウス」展示場公開中! 星ヶ峯展示場OPEN 公開中!



外観
ダイニング・和室
ウツボデッキ

他社の住宅と、是非比較してご覧下さい。違いが分かります!
2020年の省エネルギー義務化を前に、星ヶ峯に出店している各社とも高性能住宅を建て競っています。この機会をお見逃し無く各社の住宅を体感し、比較してご覧になることをお勧め致します。住宅の性能は体感することで初めて分かります。これから夏を迎えますが、エアコンの効き具合や空気質の体感など、様々な部分に気づかれる事があると思います。冷たすぎず爽やかな感じのする空調であれば価格点が上げられます。是非、体感して比較してみてください。

住宅は躯体構造が最も大事、エアコン1台のシンプルな姿をご覧下さい。 自立循環型住宅川内展示場公開中!



住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089

ひこうき雲

スマートハウスの助成金についての情報はひこうき雲48号(インターネット版)をご覧ください。
スマートハウスは鹿児島でも、当たり前ものになりつつあります!

スマートハウスを建てましょう。

スマートハウスとはどんな家なのでしょうか?

前回のインターネット版48号では、スマートハウスに関連する助成金について紹介しましたが、太陽光発電や燃料電池などの創エネ設備や蓄電池などを設備しようと考えている方は、スマートハウスの助成金に関する情報を知らない、大変な損失につながります。是非、知っておいていただきたいと思えます。スマートハウスとは、1980年代にアメリカで提唱された住宅の概念で、家電や設備機器を情報化ネット等で接続し最適制御を行うことで、生活者のニーズに応じた様々なサービスを提供しようとするものです。日本では家電の制御に関連するトロンOS(制御ソフト)を開発者である東京大学の坂村健教授が無償で提供したことから1990年に世界に先駆けてホームオートメーション時代が始まりました。その後の経済の低迷期で忘れ去られていた

のが、2010年代に米国で開始されたスマートグリッド(通信制御を伴った通信網)の取り組みと共に地域や家庭内のエネルギーを最適制御する住宅として再注目され、我が国においても福島原発事故を境に、にかにスマートグリッドを伴ったスマートハウスが脚光を浴びるようになってきました。我が国においては、1990年代のホームオートメーション素地があったために素早くスマートハウスに対応できているわけであり、いわゆる死蔵されていたガラパゴス技術が震災で息を吹き返し、日本の技術力再生に一役買うとしていくわけです。

低炭素建築物認定制度は住宅の高性能を担保。

低炭素建築物認定制度は、都市部に求められる性能で、鹿児島で少ない地域が少なくメリッとも知れませんが、スマートハウスを建てるためには、最低でも

低炭素建築物認定制度の低炭素建物の認定方法。

低炭素建築物は、省エネルギーの消費量が1割以上少なくすることが条件になっています。

低炭素住宅の性能を持つ建物が必要だと一言を認識しておく必要があります。この創エネ設備を搭載しても、プラスマイナスゼロ程度の住宅にしかならないからです。建物性能が優れていると創エネで得た電力がそのまま売電などに活用が可能になり、住宅ローンの支払いに充てたり、将来は老後資金の手助けにもなるからです。再生可能エネルギーの時代では、自分で使用するエネルギーは自分で作り出す時代になるからです。もはや原発など家庭電力を頼る時代は終わり、原発などの電力は工業や産業分野に特化されるものと考えられます。それがスマートグリッド時代の電力です。

低炭素建築物認定制度と住宅ローン減税制度。

低炭素建築物と認定された住宅は、住宅ローン減税制度の控除額が、一般の住宅に比べて10年間で最大100万円も多くなります。来年の3月までの入居であれば、一般住宅で最大200万円ですが、低炭素認定住宅では300万円です。来年4月以降の場合は、一般住宅では最大



400万円に対し、認定低炭素住宅では500万円になります。来年3月までの取得であれば更に登録免許税の軽減措置で一般住宅よりも優遇されています。認定低炭素住宅関連の優遇措置については「ひこうき雲45号」「認定低炭素住宅」昨年未開「始」に詳しく解説していますので、該当する方は、是非ご一読くださいますようお願い致します。

スマートハウスは、年々確実に増えています。

1990年代のホームオートメーション時代は、主に自物家電を中心とした住宅と通信機器との融合でしたが、現在では、太陽光発電や燃料電池、高性能蓄電池、電気自動車など、当時は未来的な夢の範囲で語られていたものが現実となっており、また私たちの住宅に取り入れられるようになってきています。白物家電類やテレビ、コンピュータ等の通信機器類、住宅内の照明器具類の一括管理は、スマートハウスの一括管理は、スマートハウスを実現させるために必要な高額の設備機器の導入には、国の補助金制度がありますから、そのような補助金制度を見逃さないで活用してください。補助金制度に関しては「ひこうき雲48号」「使えるスマートハウス助成措置」をご覧ください。低炭素建築物認定制度を活用するために省エネ基準よりも一次エネルギーの1%削減という性能を維持しなければなりません。松

ホトシボ

▼松葉ボタンの花がプランターから顔をのぞかせていました。昔は派手な色の花だと思っはすつかり松葉ボタンの仲間入りをしてしまったようです。近年では八重の松葉ボタンなどもあつたようで、葉っぱは確かに松葉ボタンの形をしていますが、しぼんでしまつたので西洋では、門を意味するボルチュラカと言う名が付けられてるようです。年々花が廃れて移り変わるからホロビソウ(不亡草)とも呼ばれるようです。

▼再三申し上げますが、今年消費税率5%の最後の年、住宅を建てるのであれば、9月30日までに契約をお済ませになれば特別措置で消費税5%で住宅が建てられます。まだまだ十分間に合いますから、住宅建築をお考えの皆様は、是非一度、松下建設の住宅展示場にご来場ください。資金計画から担当者にご相談をお受けしますから諦めないでチャレンジしてください。現在では、核家族から逆に親子の同居がトレンドになりつつあります。どうせ将来同居しなければならぬのなら、親の土地に二世帯住宅を建ててはどうかでしょうか?土地のご負担がなくなるのでどこに計画は前進する番を安心して任せられる家族の存在はありがたいものです。